久慈管内の法面防災工事

三陸国道事務所

リサイクルセンター ストックヤード建設など

＝大槌町・条件付４件＝

奥州市財政課 下川辺橋の修繕など３件

222号河川復旧など

＝山田町財政課＝

条件付４件を公告

北ノ又第二発電所の地すべり対策・復旧設計

＝県企業局＝

公告・予告

県遠野農林振興センター

県南広域振興局農政部遠野農林振興センターは７日付で、公募で実施する農業農村整備事業計画調査綾織新里地区第２号業務委託を公告した。参加希望者は、参加意思確認書を同センター農村整備課へ13日17時までに、持参で提出すること。

▽農業農村整備事業計画調査綾織新里地区第２号業務委託

施行地　遠野市上綾織町新里地内
期　限　2021年２月26日まで
業務内容　農業農村整備事業計画調査綾織新里地区の調査計画を行い、事業計画書を作成するもの（業務内容）事業計画書作成（調査対象面積50.0ha）１式
応募資格　県の建設関連業務指名競争入札参加資格者名簿に登載されていること。または、農林水産省競争参加資格（全省統一資格・「役務の提供等」）を有していること。県内に本店または営業所を有していること。過去10年間（2010年度～2019年度）において、県内の国・県営に係るほ場整備事業等（経営体育成基盤整備事業、中山間地域総合整備事業等における区画整理事業及び農用地造成事業など、換地処分を伴う農業農村整備事業）の事業計画書作成業務（事業採択前の地区調査の段階において行う、事業計画作成に係る「費用対効果算定」や「調査計画」などの業務。また、計画変更において行う、事業計画書変更に係る業務も含む）の実績があること
提出期限　2020年７月13日17時

県企業局

県企業局は７日付で、条件付一般競争入札で実施する北ノ又第二発電所地すべり対策・復旧設計業務委託を公告した。入札参加希望者は入札参加申請書を電子入札システムにより15日正午までに提出すること。入札は22日を予定している。

▽北ノ又第二発電所地すべり対策・復旧設計業務委託

施行地　八幡平市松尾寄木地内
期　限　200日間
業務内容　基準点測量６点、現地測量0.011㎢、機械ボーリング14m、地質調査（解析）業務一式、道路詳細設計0.5㎞、大型ブロック積擁壁一式、補強土一式
入札参加資格　次に掲げるア～エの基準を満たすこと。ア・測量に登録され地上測量を申請業務としていること。イ・土木関係建設コンサルタントに登録され道路を申請業務としていること。ウ・地質調査に登録されていること。エ・盛岡広域振興局の区域に本店または営業所（岩手県内に本店を有する者の営業所に限る）を有すること。2010年４月１日以降に、元請けとして次に掲げるア～ウの業務を受注した実績を有すること。ア・地上測量、基準点測量および水準測量、イ・道路詳細設計及び擁壁・補強土設計、ウ・柱状図作成
参加申請書の受付　2020年７月15日正午まで
入札予定日時　2020年７月22日17時まで
開札予定日時　2020年７月27日10時

奥州市財政課

奥州市財政課は、山の林線下川辺橋橋りょう修繕工事など３件を指名通知した。入札は９日に行われる。

▽山の林線下川辺橋橋りょう修繕工事

施行地　奥州市江刺米里字下川辺地内
工　期　200日間
入札時間　９時30分

▽真城放課後児童クラブ屋根改修工事

施行地　奥州市水沢真城字高田地内
工　期　90日間
入札時間　９時45分

▽常盤地区センター駐車場改良工事

施行地　奥州市水沢台町地内
工　期　74日間
入札時間　10時

▼以上３件
入札月日　2020年７月９日

釜石市財政課

釜石市財政課は６日付で、箱崎半島線道路災害復旧（１災543号根浜・１災124号根浜の２・１災708号箱崎の12）工事など条件付一般競争入札４件を公告した。申請書の提出期限は13、20日。入札は16、22日を予定している。

▽令和２年度上平田ポンプ場更新工事

施行地　釜石市大字平田第２地割地内
工　期　2021年３月31日限り
工事内容　受電・計装設備更新一式、ポンプ設備更新一式
入札参加条件　釜石市営建設工事等請負資格者名簿登録業者（市内業者）で、「電気」工事Ｂ級登録業者であること
入札予定時間　９時35分

▽平田公園災害復旧工事

施行地　釜石市大字平田第５地割地内
工　期　164日間
工事内容　かごマット16㎡、植生マット50㎡、盛土705㎥、コンクリート29㎥、工事用道路（敷砂利）230㎡
入札参加条件　釜石市営建設工事等請負資格者名簿登録業者（市内業者）で、「土木」工事Ｂ級登録業者であること
入札予定時間　９時40分

▽片岸公園造成工事（建築）

施行地　釜石市片岸町地内
工　期　120日間
工事内容　ユニットトイレＮ＝１基、給水管路工（φ50）Ｌ＝273m、給水管路工（φ25）Ｌ＝３m、ゲートバルブＮ＝３基
入札参加条件　釜石市営建設工事等請負資格者名簿登録業者（市内業者）で、「建築」工事Ｂ級登録業者であること
入札予定時間　９時45分

▼以上３件
申請書の提出期限　2020年７月13日17時
入札予定月日　2020年７月16日

▽箱崎半島線道路災害復旧（１災543号根浜・１災124号根浜の２・１災708号箱崎の12）工事

施行地　釜石市鵜住居町第20地割ほか地内
工　期　240日間
工事内容　箱崎半島線道路災害復旧（１災543号根浜）工事：復旧延長Ｌ＝58.5m、盛土工Ｖ＝315㎥、箱崎半島線道路災害復旧（１災124号根浜の２）工事：復旧延長Ｌ＝13.6m、コンクリートブロック積工Ａ＝45㎡、箱崎半島線道路災害復旧（１災708号箱崎の12）工事：復旧延長Ｌ＝20m、掘削工Ｖ＝180㎥
入札参加条件　釜石市営建設工事等請負資格者名簿登録業者（市内業者）で、「法面」および「土木」工事Ａ級登録業者であること
申請書の提出期限　2020年７月20日17時
入札予定日時　2020年７月22日９時30分

大槌町

大槌町は６日付で、リサイクルセンターストックヤード建設工事など条件付一般競争入札４件を公告した。参加申請書の提出期限は20日。入札は29日を予定している。

▽リサイクルセンターストックヤード建設工事

施行地　大槌町・リサイクルセンター地内
工　期　2021年１月29日まで
工事内容　150㎡倉庫、カレット置場、草枝置場、60㎡倉庫
入札参加資格　大槌町営建設工事入札参加資格者名簿に掲載されている業者のうち、岩手県営建設工事入札参加資格者名簿の格付、建築Ａ級以上で県内に本社または営業所を有する業者の条件を満たすもの－など

▽赤浜地区配水管布設整備工事

施行地　大槌町赤浜１丁目20地割および赤浜３丁目８地割ほか
工　期　93日間
工事内容　配水管布設工事、配水管布設工事（防潮堤上越し工事）保温付二重管、既設管閉塞工
入札参加資格　大槌町営建設工事入札参加資格者名簿に登録されている町内業者のうち、管工事がＢ、Ｃ級の業者－など

▽大槌町№12地区仮設施設撤去工事

施行地　大槌町大槌第23地割９番地１
工　期　2021年１月29日まで
工事内容　大槌町№12地区仮設施設（福幸きらり商店街）の撤去工事：軽量鉄骨造平屋建て４棟、２階建て３棟

（７面へつづく）

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

令和元年台風19号被害の継続調査から

岩手大学地域防災研究センター特任教授　熊谷　誠

2020年７月４日の未明に発生した豪雨により熊本県に大雨特別警報が発表され、球磨川では11カ所の氾濫箇所が生じた。さらに７月５日時点で51カ所の地域で958世帯が孤立状況にあることが報じられている。この孤立地域は、昨年10月12日から13日にかけて東北地方で大きな被害をもたらした台風19号によって本県でも複数箇所で生じていた。岩手県が台風19号による被害や対応状況をまとめた資料によると沿岸部の釜石市や宮古市の一部などで孤立地域が生じ、最大で６カ所、133世帯以上が孤立したことが報告されている。これらの多くは谷筋や沢からの増水、流木・土石の流出、がけ地や斜面からの土砂流出、河川に流れ込む排水路からの逆流・冠水などによって道路が不通となっていたが、沿岸部のなかでも海岸寄りで迂回路がないといった地理的な条件もあり、孤立状況が生じていた。

当時の避難状況について現地での調査を重ねていくと、台風が岩手県沿岸部を通過した12日深夜から13日の未明にかけて、岩手県の報告に挙がらない沿岸部の他の地域でも冠水・土砂流出等により道路が不通となり、孤立状況が起きていたことがわかった。例えば、釜石市北部、箱崎半島の桑ノ浜地区は主要道路である国道45号線方面へ向かう道路が不通となり、さらに半島の反対側の箱崎地区とを結ぶ市道も土砂流出により往来できなくなった。同市南部の唐丹町内でも市指定避難場所の小中学校がある小白浜地区内の国道45号線で土砂流出が生じ、町内の他地区からの往来ができなくなったうえ、小中学校の周辺の道路も激しい流れを伴う冠水が生じ、深夜には避難所への出入りがほぼできなくなっていた。このため、深夜に避難を試みた避難者が立ち往生し、車中泊を余儀なくされた状況も生じていた。宮古市田老地区では地区の南北から太平洋に注ぐ２本の河川が増水し、午前３時頃までに中心部の国道45号線沿と道の駅などの周辺一帯が冠水したため、地区内で南北への移動ができなくなった。

これら道路冠水や土砂流出が生じた箇所は、その多くが翌日からの復旧作業によって早期に通行可能となっており大事には至っていないが、ここで投げかけたいのは冠水や土砂流出が生じる中で行動する危険性についてである。この台風19号により県内では３名の方が犠牲となってしまったが、このうち２名の方は台風当夜の移動中に土砂流出に巻き込まれたり、道路陥没箇所へ墜落するなどして遭難している。調査を進める中で、道路の冠水や住宅地周辺で土砂流出が生じる中で、住民の救助活動や、家に留まることに不安を感じた住民の避難が行われていたことがわかってきた。そして、これらの中には先にも挙げたように避難途中で冠水や土砂流失に行く手を阻まれ、立ち往生してしまうケースもみられた。

近年の豪雨・台風災害では降雨の状況が激化していることもあり、早めの避難が呼びかけられ、逃げ遅れた際の最後の手段として垂直避難も紹介されている。しかし、現在進めている調査からは、当初から家の上階で台風の通過を待つと決めて自宅に留まっていた世帯があり、周辺で災害が発生したことで被災の危険を感じ、避難場所への移動を始めてしまうケースが見られた。さらに、自宅周辺で災害が発生する状況下では、避難の途上でも被災する危険性が高いことは先に挙げたケースが示している通りである。

今回紹介したものは三陸沿岸部の迂回路がない地域での事例であるが、中山間地域の多い岩手県内では三陸沿岸部に近い条件の地域も多く、似たような事例が生じることは想像に難くない。先にも書いた通り、垂直避難は逃げ遅れた際の最後の手段であり、想定される浸水や土砂災害の危険性の程度によっては選択できない手段でもある。現在は、新型コロナウイルスの感染のリスクから公的避難所の運営についても検討が進められつつあり、安全と思われる縁故者宅などへの分散避難等も紹介されている。これから、東北地方も出水期を迎えるが、台風や豪雨が想定される状況においては自宅周辺の被災のみならず、安全な避難場所までの経路上の被災リスクも十分考慮して、早めの避難行動を検討していただきたい。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。